二〇二六年度　北陸学院大学

一般選抜［一般制第Ⅰ期］問題

国　語

試験日　二〇二六年一月三十日

注意事項

1　試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2　本冊子に収録してある問題は次の通りです。

〈国　語〉　1ページ　～　10ページ

・解答用紙は2枚です。

3　使用しない問題用紙、解答用紙は回収しますので、試験監督者の指示に従ってください。

4　試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁や乱丁に気づいた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。

5　解答はすべて解答用紙に記入しなさい。記号は明瞭に書きなさい。

6　試験終了後に、この問題冊子は回収します。

第一問　次の文章をよく読み、後の問いに答えなさい。（字数制限のある場合は句読点、括弧等も字数に含む）

私たちは日常的に、さまざまなaカクウのストーリー、いわば妄想を、現実だと思い込み、必要のない苦しみを生きているものです。そんな私たちの妄想を「それって、妄想だよね」とやさしく修正してくれるのは、新しい経験や他者の存在です。

この私も、教員一年目の最初の頃は、大学生がなんだか怖かったものです。でも、実際に目の前に現れるリアルな大学生はみんな親切で（私が単位を出す側の人間だということもあるでしょうが）、「若者って、ちょっと怖いかも」なんていうストーリーはあっさり書き換えられたものでした。アフロヘアモコモコ男子もロングネイル大好き女子も世界冷笑絶望系男子も、センセーには親切です。どうも。

⑴こんなふうに日常のなかでもストーリーの書き換えはよく起きますが、それを意識的に行うのがナラティヴ・セラピーです。

では、どうやって書き換えるのか。

流れとしては、自分を苦しめるストーリーを自覚し、そこに揺さぶりをかけていき、別のストーリーを立ち上げていくことになります。

ここでは、ストーリーを書き換えるためにナラティヴ・セラピーで行われている二つの方法を紹介します。

ひとつが「⑵ユニークな結果への着目」です。もうひとつが「問題の外在化」です。まずは、前者から説明していきましょう。

私たちは、学校に行けない人に対して、ついつい「なぜ、あなたは学校に行けないのですか？」と聞いてしまいがちです。これに対して、ユニークな結果への着目では、「あなたが学校に行けた日には、何がありましたか？」、「その時は、あなたは、どうやって問題の影響に抵抗できたのですか？」などと問います。

また、自分に自信が持てない人に、「［　　I　　］」と聞くのではなく、「［　　II　　］」、「自信が持てないなかで、あなたは今日までどうやって頑張れたのでしょう」などと問います。

問題が起こらなかった経験や問題が起こってもそれに振り回されなかった経験、つまりは、例外的な経験に着目するのが、ユニークな結果への着目という技法です。

大学には「勉強が嫌い」と言う学生もたくさんいます。「勉強は、大嫌いです」とハッキリ言い切られると、そこにはミントの香りの風が吹き抜けたかのようなすがすがしさがあったりします。それで、「へぇ、そうなんだ」と勉強が嫌いだというストーリーをふんふんと聞いて

いくと、「高校の時、日本史だけは得意でした」なんていう語りが飛び出してきたことがあります。その時に「日本史は他の科目と何か違ったの？」と聞くと、「そういえば、日本史だけは先生のことが大好きでした」という答えが返ってきたことがありました。

「私は断固として勉強が嫌いで、例外はありませんっ」と言う女子学生もいました。彼女は勉強なるものに激しいうらみを抱いている様子で、b眉間にシワも寄り、ともかく嫌いだというオーラが全身からにじみ出ています。

それでまた私は「へぇ、そうなんだ」とふんふんと話を聞いていたところ、彼女は韓国ドラマが大好きだということがわかってきました。韓国系コンテンツ漬けの日々で、休みの日は朝から晩までcヒタりきっているそうです。この話題になった途端に「すっごい、楽しいですぅ～」とふにゃぁと彼女の表情はゆるみ、私の研究室にピンクのハートがふわふわ浮かんできそうでした。

ですが私は「そ、そ、それって、韓国語、め、めちゃめちゃ勉強しちゃってるんじゃないっ？」と驚いてしまいました。その女子学生も、「勉強しちゃってますぅ～」と言って、二人で笑ったこともありましたっけ。実際に、彼女は韓国のドラマや映画はdジマクなしで理解できるくらい韓国語をマスターしていました。大学生になるまでの経験で、いわゆる学校のお勉強は嫌いになってしまったけれど、そのものはしっかりと持っていることがわかります。

こんなふうに「勉強なんて大嫌い」というストーリーにおおい尽くされた現実を細かく見ていくと、実際には、⑶そのストーリーには収まらない生きられた経験、生き生きとした経験があったりします。ナラティヴ・セラピーでは会話をしながら、そうした生きられた経験を見つけて、そこに着目していきます。

ナラティヴ・セラピーは＊セラピストと行うカウンセリングですが、この方法は、自分に対しても実践できます。

たとえば、「大変なことがあっても、なぜ、わたしは、今、○○ができているのだろうか」と問うことで、自分がその問題にいつも負けているわけではない現実に目を向けていくことができます。

そこに現れてくるのは、私たちのさまざまな強味です。ユニークな結果への着目は、うまくやれた時、自分のよいeシシツ、自分の力など、自分自身のポジティブな側面への着目でもあります。

ただし、この方法は、他者や自分のつらさを否定する可能性も少し含んでいます。⑷ポジティブだと見なされているものに、ただ光をあてればよいわけではありません。あくまで結果的に、ポジティブな何かが私たちの心のうちに立ち上がってくることが大事です。そうしてはじ

Ⅲ

めて、そのポジティブな何かは私たちの心をあたため、本当の意味での光になります。心が闇でおおわれている時に、外から無理に光をあてれば、闇は深まるばかりです。

こんなふうに注意しつつも、ユニークな結果にうまく着目できれば、それまで自分を苦しめてきたストーリーは、より生きやすい別のストーリーへと書き換えられていきます。私たちの視野は広がり、思考は柔軟になり、新しい可能性が開けてきます。マスターしておきたい技法です。

（中村英代『嫌な気持ちになったら、どうする？　ネガティブとの向き合い方』より引用）

＊　セラピスト……社会復帰のための治療を行う人。療法士。

問一　二重傍線部ａ～ｅの片仮名を漢字に直し、漢字は読みを平仮名で書きなさい。（漢字は楷書で丁寧に書きなさい。）

問二　傍線部(1)「こんなふうに日常のなかでもストーリーの書き換えはよく起きます」とあるが、筆者の日常でどのようなストーリーの書き換えが起きたのか、四十字程度でまとめなさい。

問三　傍線部(2)「ユニークな結果」と同じ内容を表している部分を、本文中から三十五字で抜き出しなさい。

問四　空欄Ⅰ、Ⅱに入る適切な一文を前後の文脈から考えて、それぞれ二十字程度で書きなさい。

問五　空欄Ⅲに入る最も適切な言葉を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　現実に目を向けようとする心
イ　自分で何かを学んでいく力
ウ　ドラマや映画に対する研究心
エ　韓国語を学ぼうとする意欲

問六　本文中に出てくる二人の「勉強が嫌い」な大学生にとって、傍線部(3)「そのストーリーには収まらない生きられた経験、生き生きとした経験」とは何だったのか、二つ答えなさい。

問七　傍線部(4)「ポジティブだと見なされているものに、ただ光をあてればよいわけではありません」とあるが、それはなぜか。本文中の語句を用いて四十字程度で答えなさい。

問八　次のア～オの中に、本文の内容と一致しないものが二つある。記号で答えなさい。

ア　ナラティヴ・セラピーは自分自身に対してストーリーの書き換えを実践していく方法である。

イ　妄想を現実と思い込み苦しんでいる私たちを、新しい経験や他者の存在が修正してくれる。

ウ　自分自身のポジティブな側面への着目により、自分がいつも負けているのではない現実を知る。

エ　私たちの様々な強味が、それまで自分を苦しめてきたストーリーへと書き換えられていく。

オ　より生きやすいストーリーへの書き換えは、私たちの視野を広げ、思考を柔軟にする技法だ。

第二問　次の文章をよく読み、後の問いに答えなさい。（字数制限のある場合は句読点、括弧等も字数に含む。）

「オノマトペとは何か」という問題から考えてみよう。そもそも「オノマトペ」という用語はどこから来たのか？　この用語は、ギリシア語 a キゲンのフランス語である。ギリシア語では、onoma（名前、ことば）＋poied（作る）で「名前を作る」の意。これをもとにしたフランス語の onomatopée や英語の onomatopoeia は、ヒトや動物の声や物音を模した擬音語を指す。つまりもともと、「オノマトペ」とは擬音語のことなのである。実際、欧米の言語で「オノ・マトペ」というと、擬音語のことだけを考える人たちが多い。

しかし、(1)日本語では、大多数のオノマトペはむしろ擬態語である。また、欧米以外の多くの言語、あるいはバスク語のような一部の欧米の言語でも、日本語の擬態語のように様子や動作、手触りなどを表すオノマトペは数多く観察される。（略）

【X】オノマトペの例は日本語話者ならすぐに思いつくだろう。たとえば、以下のダイアローグの中で、オノマトペはどれだろうか？

A　ご飯さあ、食べてね。
B　ああ、ありがと。
A　こんなに食べらんない。
B　これ、おれ、もうちょっとイメージ的にはこう、このぐつぐつしとるのかと思ったら、なんか、なんか（笑）、なよっとした感じで。
A　（笑）うん、ある意味、べ、べ、べちょっていう。
B　もっとジュージャーいって出てくる。

（名大会話コーパス）

このダイアローグで使われたオノマトペは、少なくとも(2)「　Ⅰ　」「　Ⅱ　」「　Ⅲ　」「　Ⅳ　」の四つ。必ずしも辞書どおりのオノマトペの使い方ではない。「　Ⅱ　」は通常、人が弱々しくて頼りない様子を表すし、「　Ⅳ　」に至ってはその場限りで作られた語である。それにもかかわらず、日本語を母語とする人なら、これらのオノマトペは、感覚的に意味がわかり、このダイアローグの光景が鮮明にイメージできるのではないだろうか。もしかしたら、これがハンバーグの話であることまで想像できたという読者もいるかもしれない。私たちはこれほどオノマトペを熟知している。

しかしいざ「オノマトペとは何か」を定義しようとすると、これがかなり難しい。これまで何人もの言話学者がこれに取り組んできたが、なかなか納得する定義には至っていない。

オノマトペの特徴としてすぐに思いつくのは、繰り返しの語形である。重複形と呼ばれる。「　Ⅰ　」「ブラブラ」「キラキラ」「ホカホカ」「ポンポン」など、重複形のオノマトペはいくらでも挙げることができる。また、重複形のオノマトペは他言語にも多く、バスク語で「グルカグルカ」といえば「ゴクゴク」を、南米のパスタサ・ケチュア語で「アキアキアキアキアキ」といえば、「ユラユラ」に似た前後の揺れを表す。しかし、「　Ⅱ　」「　Ⅲ　」、さらに西アフリカのエウェ語で「ザラザラ」を表す「ツァクリー」は繰り返されていない。「オノマトペ＝重複形のことば」というわけではないようだ。

現在、世界のオノマトペを大まかに捉える定義としては、オランダの言語学者マーク・ディンゲマンセによる以下の定義が広く受け入れられている。

〔オノマトペ：感覚イメージを写し取る、特徴的な形式を持ち、新たに作り出せる語〕

かなり抽象的な定義である。「特徴的な形式を持つ」という点は、オノマトペに重複形が多いことから納得できそうである。「新たに作り出せる」という点も、先の「　Ⅳ　」のような例から明らかだろう。では、「感覚イメージ」を「写し取る」とはどのようなことを意味するのだろうか？【Y】

まず、オノマトペは感覚を表すことばかどうかを考えよう。一般に、「感覚を表す」ことばとして真っ先に挙げられるのは形容詞である。日本語の形容動詞も含む。「うるさい」「静かな」「甲高い」は聴覚、「大きい」「鮮やかな」「赤い」は視覚、「滑らかな」「熱い」「重い」は触覚、「酸っぱい」「甘い」「しょっぱい」は味覚、「くさい」「芳ばしい」はb嗅覚といった具合に、形容詞の多くは感覚特徴を表す。

一方で、感覚と強く関わる動詞というと、「聞く」「見る」「感じる」「味わう」「嗅ぐ」あたりである。名詞なら、「音」「外見」「手触り」「味」「匂い」などであろうか。「走る」「食べる」「吠える」「知る」などの動詞は、五感のどれに関わるかというよりも、どんな出来事かを軸にしたことばである。「ネコ」「空気」「夢」「昨日」などの名詞も、どの感覚のことばかというよりは、対象がどんなものかに関心を持つことばである。

では、オノマトペはどうだろう？　いわゆる擬音語は、「ニャー」「パリーン」「カチャカチャ」のように聴覚情報を中心に表す。擬態語の

中には、「ザラザラ」「ヌルッ」「チクリ」のように触覚情報を表していると思えるものもあれば、「スラリ」「ウネウネ」「ピョン」のように視覚情報に注目しているものもある。さらに、擬情語と呼ばれるオノマトペは、「ゾクッ」「ドキドキ」「ガッカリ」のように第六感とでもいうべき身体感覚や心的経験を表す。

多くの形容詞と同様、オノマトペは感覚のことばなのである。このことは、感覚的でない意味を表すオノマトペが想像しがたいことからもわかる。たとえば、「正義」「愛」「迷惑」といった名詞は特定の感覚によらない意味を表す。一方、これらの意味を表すオノマトペというのは、日本語でも他言語でもなかなか見つからない。これらの概念は、音でcマネるには抽象的すぎるのであろう。形容詞ならば、「正しい」「愛おしい」「迷惑な」のような語でこれらの概念を表すことができる。(3)その意味で、オノマトペは形容詞よりもさらに感覚を中心に据えたことばと言えるかもしれない。

先の定義によると、オノマトペは感覚イメージを「写し取る」ことばだという。しかし、ことばで「写し取る」とはどういうことなのだろうか？　このことを考える糸口として、オノマトペが万国共通に理解されるものなのかという問題から始めたい。写真やコピー機のようにイメージを写し取ってことばにするのなら、どの言語のオノマトペでも似通っているのではないだろうか。もしそうなら、知らない言語のオノマトペでも、意味がある程度予想できそうである。（略）

一般に、オノマトペはその言語の母語話者にはしっくりくる。まさに感覚経験を写し取っているように感じられる。ところが、非母語話者には必ずしもわかりやすいとは限らない。実際、日本語のオノマトペは、外国人留学生が日本語を学ぶ際の頭痛のタネになっている。「髪の毛のサラサラとツルツルはどう違うの？　全然わからない！」と彼らは言う。

(4)感覚を写し取っているはずなのに、なぜ非母語話者には理解が難しいのか。「感覚を写し取る」というのはそもそもどういうことなのか。この問題は、オノマトペの性質を理解する上でとても重要である。同時にこれは、オノマトペの問題にとどまらず、アートをはじめとしたすべての表現dバイタイにおいて問われる深い問いなのである。

オノマトペが感覚イメージを写し取ることについて、もう少し深く考えてみよう。対象を写し取るものとしてもっとも直接的で写実的なのは動画や写真だろう。しかし「感覚」は、外界にあるものではなく、表現者に内在するものである。

絵画はどうだろう。写真ほど忠実ではないが、やはり対象を写し取っていると言ってよいだろう。しかし、絵画で大事なのは、表現者の

「感覚の表現」であり、多かれ少なかれ絵画の中に見えるものは、表現者の「主観的感覚」である。したがって絵画は、その抽象度において大きな差が生まれる。非常にeサイミツに対象を切り取った具象的な絵画は、その対象が誰にでもよくわかる（もちろん、それだけではアートにはならず、どんなに具体的に描かれた対象でも、そこに表現者の「感覚」が表現されてはじめて「アート」であると言える）。他方、【　A　】絵画は表現者の内的な感覚の表現に重点が置かれ、特定の対象が※同定できないこともよくある。

オノマトペでは絵画のように「感覚イメージを写し取る」のであろうか？　オノマトペは、少なくとも当該言語の母語話者はそれぞれ意味を直感的に共有できるので、絵画でいうと、具体的な対象が同定できない抽象絵画よりは、【　B　】絵画に近いだろう。ただし、絵画は原則、鑑賞者の使う言語や文化に関係なく受けとめられることを前提としているが、オノマトペは特定の言語の枠組みの中で理解される。

（今井むつみ　秋田喜美『言語の本質　―ことばはどう生まれ、進化したか―』より引用）

※同定　あるものとあるものの同一性を認めること。

問一　二重傍線部ａ～ｅの片仮名を漢字に直し、漢字は読みを平仮名で書きなさい。（漢字は楷書で丁寧に書きなさい。）

問二　傍線部(1)について、筆者は擬態語をどのような語と考えているか。文章中の言葉を用いて十五字程度で書きなさい。

問三　【X】から【Y】までの文章につける見出しとして最も適切なものを、次から選び記号で答えなさい。

ア　オノマトペの事例
イ　オノマトペの特徴
ウ　オノマトペの定義
エ　オノマトペの形式

問四　傍線部⑵について、空欄 Ⅰ 〜 Ⅳ に当てはまる語句の組み合わせとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。ただし、以後の空欄 Ⅰ 〜 Ⅳ には同じ語句が入る。

ア　Ⅰああ　　Ⅱなよっ　　Ⅲべちょ　Ⅳジュージャー
イ　Ⅰぐつぐつ　Ⅱなんか、なんか　Ⅲべちょ　Ⅳジュージャー
ウ　Ⅰああ　　Ⅱなんか、なんか　Ⅲべちょ　Ⅳジュージャー
エ　Ⅰぐつぐつ　Ⅱなよっ　　Ⅲべちょ　Ⅳジュージャー

問五　傍線部⑶について、筆者は、オノマトペが形容詞とどのように異なることばであると主張しているのか。「その意味で」を踏まえ、次から最も適切なものを選び記号で答えなさい。

ア　形容詞は五感や身体感覚を幅広く表せるが、オノマトペは主として出来事や対象がどんなものかに関心をもつ語である。
イ　形容詞は感覚的特徴を表すが、オノマトペは聴覚情報を中心とした、より想像しやすい概念を表す語である。
ウ　形容詞は五感や身体感覚を表すにとどまるが、オノマトペは抽象的概念を幅広く示す語である。
エ　形容詞は抽象的概念を主に表すが、オノマトペは五感や身体感覚に限定された語である。

問六　傍線部⑷「感覚を写し取っているはずなのに、なぜ非母語話者には理解が難しいのか」について、筆者はその理由をどう述べているか。文章中の言葉を用いて三十字以上四十字以内で答えなさい。

問七　【　A　】【　B　】に最も適切な二字の対義語を文章中から書き抜きなさい。